

総合特別区域評価・調査検討会における評価結果の概要(令和2年度)

2. 分野別状況(2)地域活性化総合特区 ⑤農林水産業分野(2/5)

	総合評価 (ⅠとⅡとⅢを1:1:2の割合で計算)	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
		目標に向けた取組の進捗	支援措置の活用と地域独自の取組の状況	取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決	
あわじ環境未来島特区 (兵庫県、洲本市、南あわじ市、淡路市)	3.9	4.0 進捗度 ・エネルギー(電力)自給率 106% ・二酸化炭素排出量 119% ・再生可能エネルギー創出量 98% ・竹燃料の消費量 22% ・新規就農者数 81% ・再生利用が可能な荒廃農地面積 111% 等	3.9 規制の特例等 ・太陽光発電施設の系統連系に係る迅速な手続の明文化等 財政支援等 ・洋上風力発電の事業化可能性調査 地域独自の取組 ・住宅用太陽光発電システム設置費補助金等	3.8	<p>・全体としては、堅調な実績であると評価できよう。地域独自の取組については、相当活発であると評価できる。</p> <p>・玉ねぎの残渣のバイオマス資源としての活用はよい取り組みだと考える。竹チップの活用の拡大をはじめとする農業・自然資源の再利用と循環促進のための取り組みを数多く立ち上げていくことを期待したい。</p> <p>・新規就農者については、多くの地域で課題となっているため、人数だけでなく、就農後の経過把握、支援を心がけたい。</p> <p>・評価指標(7)「島内農家一戸当たりの島内農協の野菜販売高」は、実績値はかなり伸びている。年による変動がありうる指標であり、中長期的な見通しが求められる。</p> <p>・新型コロナウイルスの影響が大きく響いているのは交流人口である。R2年度の持続人口としての評価は、テーマパークのアトラクションの新規開設や大学との連携など、積極的な取組もあって前年度並みではあったが、今後どのような動きがあるかには注意が必要である。</p> <p>・淡路島全体で、2つのエコに取り組んでいる。再生産エネルギーのエコと農業のエコである。エネルギー自給や二酸化炭素排出量抑制、再生産可能エネルギー創出量の拡大など再生産エネルギーに関するものは、ほぼ計画通りに進んでいることから、今後も持続的な取組に期待したい。</p>